

笹原の板倉や鏝^て絵^え 一目で分かります

茅野のくらフォーラム 公民館前に案内板



笹原区の観光に生かそうと設置した板倉と鏝絵の案内板

八ヶ岳山麓の魅力を地域に残る資源から再発見しようと取り組むグループ「くらフォーラム in 八ヶ岳」は、茅野市湖東の笹原区に残る板倉を観光にも活用しよう

と、笹原公民館前の広場に案内板を設置した。27日に地元関係者も招いて除幕式を行った。

「くらフォーラム」は、同区内に点在する90余りの倉や、倉の壁

に左官職人が描いた「鏝^て絵^え」、旧跡などを載せたガイドマップを7月に作った。このマップを活用した案内板は縦1.5m、横1.5m、横1.5m、カラマツの間伐材を利用した外枠は、地元の大工がボランティアで作った。費用は約15万円。

除幕式には「くらフォーラム」のメンバー、市や区の関係者のほか、製作費を助成した茅野エコツーリズム協議会の代表らも出席。席上、案内板の寄贈を受けた関誠区長(62)は「村おこし、地域活性化につなげていきたい」と感謝の言葉を述べた。

同市内の別荘に滞在中の数学者藤原正彦さんが飛び入りであいさつ。母の作家藤原ていひの故郷でもある笹原に特別の思い入れがあるという藤原さんは「美しい村を守っていただければありがたい」と期待の言葉を寄せた。

「くらフォーラム」では29日、笹原区の板倉や鏝絵を巡るツアーを行う。事務局長の朝倉清さん(69)は「笹原の魅力を多くの人に知ってほしい」と話している。

(牛山義章)